

◆ 主 題 名 (生徒に提示するもの)	ともに生きる社会の実現
------------------------	-------------

内容項目	見出し	教材名
C - 12	ともに生きる社会の実現	No Charity, but a Chance !
価値項目		
1・2・3・4		公共の精神
本時のねらい		
・ よりよい共生社会を実現していこうとする実践意欲を育てる。		

主題発問に向かうための導入・場面発問

◆ 導 入	発問	パラリンピックを観ましたか？
	補助発問	どんな競技があった？印象に残った選手は？どんなところが印象に残ってる？

教科書の写真は準備しますが、導入は、各先生方のパラリンピックで印象に残った選手の写りがあったらいいかと思います。

★「日本パラリンピックの父」と呼ばれる人がいます。今日は、その人のお話です。
(教材文を読むor【公式】パラDO！中村裕さんを視聴する)

◆ 場 面 ①	発問	中村医師は、イギリスの病院で何に気づいたのだろう。
	補助発問	どうしてイギリスの病院は社会復帰率が高く、しかも早いのだろう。

◆ 場 面 ②	発問	中村医師は、外国人選手の姿から、どんなことを学んだのだろう。
	補助発問	東京パラリンピックで、外国人選手が生き生きと買い物に行けるのは？

◆ 場 面 ③	発問	中村医師は、どんな思いで「太陽の家」に力を注いだのだろう。
	補助発問	彼らの生きがいを失わせてはいけない。←生きがいて？ なぜそこまで？

L
i
n
k

◆ 主 題 発 問	今のわたしたちの社会を見て、中村医師は何と言うだろう。
-----------	-----------------------------

◆ 学 び 合 い 活 動	場面発問①	場面発問②	場面発問③	主題発問
	個 ⇨ (ペア ・ グループ ・ フリー) ⇨ 個			

留意点等	発問③で、障がい者が社会に参画し、生きる自信と喜びをもって過ごせる社会を実現したいという、中村医師の思いに気づかせ、中心発問につなげたい。成功裏に終わったようなパラリンピックであったが、実際自分の関心はどうだったか、普段の生活において障がいをもつ人のことも視野のうちにあるか、中村医師の言葉を通して考えさせたい。肯定的な意見も否定的な意見も出てきてほしい。
------	--

授業後の振り返り

オリンピック・パラリンピック開催後だったので、生徒の関心は高かったように思う。中心発問では、肯定・否定さまざまな意見が出た。「オリンピックとパラリンピックに分けること自体、差別ではないのか」「本当の平等ってどういうことだろう」という意見も聞かれ、興味深かった。前半の場面発問を短縮して、学び合い活動後の全体共有の時間が長く取れれば、もっと深まったと思う。